

令和6年度の校内研究を振り返って

テーマ：哲学対話「先行学習とは」

校長 今日の校内研究全体会は、1年間の研究を振り返り、次年度の研究の方向性を見出せたらと願っています。さて、これから先生方には、「哲学対話」という方法で話し合ってもらいます。この「哲学対話」は低学年でも取り組めるので、是非、今日経験したことをもとに、各学級でも試して欲しいです。

総合的な学習の時間に限らず、これから「探究」という学び方がますますクローズアップされます。その意味からも「哲学対話」の技法を教室で生かし、自由に考えを出し合い、考えを深める学びを創造して欲しいです。

さて、最初に「哲学対話」を簡単に説明します。問いが決まったら対話のスタートです。対話中の教師の役割はファシリテーターです。ですが、議論を促進するために、教師自身が長く話してしまったり、誰かを指名して無理やり話を広げたりすることは好ましくありません。哲学対話におけるファシリテーターの役割は、参加者が安心して話せる場を作ることであり、だからこそ「わからなくなってもいい」など対話のルールを体現することが重要です。教師自身が、意見がまとまらなくても話したり、分からないことはわからないと正直に伝えたりすることで、子供たちの安心感が育まれます。もちろん、対話を促すために質問をぶついたり、反論したりすることは大いに結構だと思います。対話の終わりには結論は出しません。話ができるのは、コミュニティー・ボールと言われる毛糸でできたふわふわのボールをもった人だけです。今日はくまの



プーさんがコミュニティー・ボールです。また、人が話しているときに、今度は自分が話したいと挙手することも結構です。そうすると、発言が終わって、次の人が手を挙げるのを待つ空白の時間が少なくて済みます。また、話したくない人は、聞くことに徹してもよいです。無理に話さなくてもよいのです。そのため、10～15人程度がふさわしいと言われ、話さない人が目立つことがないです。さて次の8つが哲学対話のルールです。

哲学対話の8つのルール

1. 何を言ってもいい。
2. 人の言うことに対して否定的な態度をとらない。
3. 発言せず、ただ聞いているだけでもいい。
4. お互いに問いかけるようにする。
5. 知識ではなく、自分の経験にそくして話す。
6. 話がまとまらなくてもいい。
7. 意見が変わってもいい。
8. 分からなくなってもいい。

(梶谷真司著『考えるとはどういうことか』2018年9月刊、幻冬舎新書 より)

校長 今日は、1年間研究に取り組んできた「先行学習とは、」を対話のテーマにしたいと思います。

A先生 「先行学習とは、」ということで話す内容は何でもよいですか。

校長 はい、結構です。どんなことでもよいです。

A 先生 先行学習は、学習内容がわからない子供たちでも、安心して勉強できる手法なのかなと思っています。ここ2年間、実践して感じるころは、まずは教え込むということです。学力の中間層は感じていないと思いますが、上位層の子供たちにとっては、チャレンジ問題があるにしても物足りないのではないかと思います。内容によっては集中できない子供が増えてしまうのかなと思っています。そういう意味から来年度の研究については、教科を絞った方がよいと思います。

B 先生 私は今年、先行学習で研究授業をさせていただきました。先行学習で授業すると、とても効果のある教科とそうでないものがあると感じました。鏑木先生や校長先生がおっしゃっているように、教科や単元に応じて問題解決学習と先行学習を使い分けていくことが大事だと思います。問題解決学習一辺倒でもよくないです。

私の専門は体育です。体育は問題解決学習だけだと無理なところがあります。例えば、器械運動などはやり方が決まっています。「どうやろう。」と子供に問いかけると、いろんなやり方が出てきてしまします。例えば 前転ならば、前転とはこういうものだとか教えなければいけないものです。そういうものに関しては、先行学習とは言ってはいないですけれども、先行学習的な要素があったと思います。開脚跳びとはこうで、台上前転とはこうすると教えなければなりません。技が決まっているから、その知識は与えなければいけません。その知識は教員が教えるべきものです。一方、子供に考えさせることは、技のポイン

トやコツです。また人にそれらを伝えるにはどうしたらよいのかを考えさせることもあります。

体育においては、先行学習は意味のある指導法だと思います。問題解決型の指導は考えなくても教師用指導書を見れば分かります。先行学習を新たな指導法のスキルとして取り入れていくことが大事だと思います。先行学習と問題解決の授業の二刀流ができればよいと思います。2学期に先行学習で理科の研究授業した後は、先行学習で理科の授業を進めてきました。

C 先生 先行学習の解釈について話ができればと思います。先行学習と問題解決学習を推理小説に例えれば、ミステリーとサスペンスかなと思います。先行学習は先に答えを伝えてしまうので、古畑任三郎みたいにみたいに犯人とトリックがわかっていて、徐々にそれを解いていくというタイプ。一方、問題解決学習は金田一みたいに、事件が起きてそれを追い詰める中でどんどんヒントを得ていくというタイプだと思います。

自分は、先行学習に取り組んで3年目となります。先ほどA先生やB先生が言ったように、教科や単元によって使い分けるハイブリッドの指導ができればと思っています。自分の学級で先行学習を実践してみると、効果がある子供たちがいる反面、学習内容をすでに理解している子供たちに、もう少しアプローチができたらと感じました。先行学習にしる、問題解決学習にしる、もっと自分の授業力を高めなければいけないと感じた1年でした。

D 先生 今年度、初任者のグループ研修の研究授業で先行学習に取り組んでみました。先行学習は最初に答えを教えるから考

えが深まるということが分かりました。私も先行学習と問題解決学習の両方で授業ができることが理想だと思います。

区の研究会では理科部会に参加しています。そこでは仮説を立てようとか予想をしようとか、研究主題となっています。理科部会で授業を参観すると、導入からも先行学習とはずいぶん違う授業だと思います。しかし、先行学習だからといって、仮説や予想がまったくできないかというと、そういうことはありません。先行学習の活用課題では最初に教えたことを活かして、仮説や予想を立てることができます。そういう意味からも教科や単元によって指導法を使い分けることが大事だと思います。

E 先生 皆さんすごくいいことを言われています。ですから私は感想を言いたいです。僕にとって先行学習は教師としての固定概念を覆すものとなりました。例えば最初に答えを教えてもよいのかという思いが当初はとても強かったです。先行学習をやってみる中でこの授業方法でわかる子がいるということが実感しました。自分としては画期的な授業のやり方だと思っています。

F 先生 考えはまとまっていませんが、先生方のお話を聞くと先行学習と問題解決学習の両刀使いがよいと思います。何を学ばせたいかを学習内容で先行学習を選択すべきだと思います。私は今年、校内研究で国語の文学作品を扱って授業をしました。先行学習でできると気付いたところもありますが、正直言って苦しいところもありました。教材の『大造じいさんとがん』の作品を味わう時には、先行学習ではなく問題解決型でもよいと思いますが、文学作品の読み取り方を学ぶならば先行学習がふさわし

いと思います。なぜならば、これから受験や仕事をする際に相手の感情を考えるなど、『大造じいさんとがん』で学んだ心情の読み取りが役に立つと思います。文学作品の読み方のスキルを学ぶという点では先行学習は有用だと思います。この先教師として何かを指導する際に先行学習と問題解決学習のどちらがふさわしいかと考えていくべきだと思います。その意味からも今年の先行学習の校内研の経験は貴重だったと思います。

B 先生 以前、同じ学年のD先生に話したのですが、先行学習はコナンだと思います。コナンのアニメーションでは、最初から犯人がわかっているパターンがあります。あれはあれで面白いと思います。その人が犯人だと100%分かっていますが、そこにたどり着くためにどういうトリックでその犯罪を行ったかを突き詰めていきます。その意味からもコナンは基本的には問題解決型だと思います。しかし、作者は最初から犯人が分かっているパターンと徐々に犯人を特定していく、そのどちらが面白いか考えていると思います。それを考えてストーリーを構成していると思います。E先生が使い分けると言っていたようにどちらの指導法もやってみることが大事です。

理科の授業では、どうなるかと結果を予想させます。予想させて実験方法も考えさせます。そして結果をまとめて考察もさせます。先行学習での研究授業に取り組むことになって、最初に答えを教えるということに驚きました。しかし、やってみるとなるほどと思いました。ですから、まずはやってみることです。

C 先生 3月の下旬、5年生に全国学力テ

ストの過去問題に取り組ませました。記述式の問題に対して、どのような思考を踏んでいくかは先行学習のスタイルでした。答えは分かっているけれども、それを導き出すための手順に沿って自分の考えを書かなくてはなりません。このことは先行学習と親和性があります。

G 先生 私も先行学習と問題解決学習をやり、どちらも使えるようになることがよいのかなと感じました。先行学習で取り組んでみて困ったことは、予習の時間の確保です。この学校の子は、「家で予習に取り組みなさい。」と言われて、全員できるような状況ではありません。そのような子に対して、予習を授業中にやるべきかを悩んでいました。それを鏑木先生にお聞きしたところ、「予習はゼロでもよい。」との返事でした。また、「予習をやってこなかったら、それでいい。」とも言われましたが、担任の気持ちとしては、一度は予習をやりたいところです。予習として書くことで学習の基本的な知識が入るので、それをもとに活用課題に取り組むことの大切さを実感しました。算数や理科は先行学習に向いていると思います。それは自分が先行学習に取り組んでみての感想です。

H 先生 先行学習はプログラミングに似ているところがあります。ゴールが決まっていってその過程をたどるところです。また、理解度評定がとてもよいと思いました。普段の授業では子供たちの学びを毎回見取することは難しいですが、先行学習の理解度評定ならできます。子供たちの考えを広く知りたい時は、問題解決学習で授業をするのが好きです。

I 先生 私も理解度評定は主観でよいと言

われても、そうなのかと思いました。それでもやもやしながら授業をしているところもありました。子供は理解度評定の場面で、自分の分かり方を選択します。しかし、先行学習で授業をした後、子供たちの振り返りのノートを見ると、自身の成長したところなども書かれていたり、何がわかるようになったかが記述されたりと言語化ができている子も結構いました。理解度評定で子供見とる視点を増えました。私も先行学習と問題解決型学習のどちらもできるようになりたいです。そして目的に応じて使い分けるようにしたいです。

J 先生 先行学習をやってみて分かったことは、先行学習は目的がはっきりしているものでよいと思いました。私は子供たちの意見を拾いすぎて授業が拡散してしまうことがあります、そこが悩みでした。その意味からも先行学習のやり方はよい方法だと感じました。

K 先生 今日の5・6時間目に鏑木先生の理科の授業を子供たちと一緒に受けました。プリント学習もやりました。白紙のプリントを前にして、「書きなさい。」と言われても急にはできないものです。しかも、「それを発表しなさい。」と言われると、自信のない子は挙手することはできません。ですから発表する前に教科書を見て答えを確認できるというのは安心です。しかし答えを見られるという安心感で考えなくなるというのはよくないです。そのため先行学習を使う場面を選択した方がよいと思いました。私も両方できるようになりたいです。

B 先生 予習について言えば、6年生は予習をします。4年生もやらせればやっ

てくると思います。たとえ予習ができていなくても、授業の前に教科書を見る姿があります。逆に、「ここをやってきなさい。」と言われた宿題の方がやってくると思います。自分のクラスは予習と自主学習を並行してやっています。金曜は予習の日です。やり方を知れば結構予習に取り組んでできます。それが発展して、国語や算数などの教科書を見て、答えやまとめなどを書く予習をする子がいます。授業で予習内容が出てくると、「やった」などの声が上がります。そして予習がベースとなって学習ができるようになってきました。ある学習不振の子が、家で漢字50問テストの学習に取り組むことで高得点を取るようにもなりました。その意味からも予習は有効だと思います。高校や大学の入試を考えると学びのスキルは必要だと考えます。

先行学習と問題解決学習の大きな違いは、先行学習は教師の力量の差があまり感じられないことです。それは教材研究も焦点化され、教える内容も精選されているので、誰がやってもほぼ同じような授業となります。

一方、問題解決型の授業は教師のスキルが問われます。板橋区教育会の一斉部会などで授業を参観すると、100点の授業もあれば、20点もあります。この先生だからできる授業がたくさん見られます。

筑波大学附属小学校をはじめ、先行学習のいろいろな授業を見て感じるのは、先行学習では、この先生だからできることはありません。若手や授業に自信のない先生は先行学習に取り組むべきだと思います。問題解決型の授業は指導力の差が大きく出るので、校内で研究に取り組むことは難しいです。その点、先行学習はすべての教員が同じ方向を向いて研究ができます。例えば5年生のE先生や1年生の延嶋先生の授業

を参観したときに、自分もできそうだと感じました。先行学習を校内で研究するのは意味があると考えます。教科を絞ると参観しやすいと思います。また、先行学習のスキルのうち共書きや2点評価などとどれかを特化したり、これは全員が必ずやると決めたりすることもよいと思います。共書きならば、学年を系統的にみられるのもよいと思います。

F 先生 5年生は4月の全国の学力テストを控え、過去問に取り組んでみました。その中で記述式の問題が苦手で、筆者の考えを整理して書き出す経験があまりなかったので、どうしたらよいのか分からなく途方にくれていた子が多いです。

その中でも、先行学習で考え方や答え方の型を知って、だいたい書ける子が増えてきました。国語の最後の単元で、「手塚治虫へ感想文を書こう」の学習では、書くことが苦手な子もいるので、タブレットを使ってよいとしています。何を書いたらよいか、どう書いたらよいかと迷って全然書けない子はいません。子供によっては言葉がどんどん沸いてきて、もう4枚目ですという子もいます。また、これだけは書こうと指導してどうにか書き上げる子もいます。何をどう書くかの思考のパターンが身に付いてきたと感じます。こらからの学力には書く力が必要だと思います。自分の学級の子供たちには常々そのことを話しています。

E 先生 若手の先生方はいいなと思います。それは先行学習という指導法に早くに出会えたからです。授業のスタイルを学習内容に応じて選択できます。それを武器にし、授業力に磨きをかけて欲しいです。

A 先生 私は授業や授業を考えることは、あまり得意な方ではありません。今後、中根橋小でやった先行学習をベースにして授業をしたいです。その意味からも、先行学習の教科や単元ごとに有用性を実証するなどもっと体系化すべきです。中根橋小のみんなで先行学習のベーシックやスタンダードをつくれればと思います。例えば、1年生国語の書き方の学習を先行学習で授業し、作文用紙の使い方を指導する。3年生は結論から話すなどの話し方などの指導計画を作ってみたらと思います。各教科の単元計画に、先行学習で取り組むものを明示できるとよいです。これから来る若手の先生もこの単元は先行学習で教え込んでもよいと知ることができます。ただ研究授業をやって終わりにするのではなく、研究するならば活用できるものを作りたいです。